

1 基本項目	事務事業名	歴史民俗博物館企画展事業		担当部署	課名	生涯学習・スポーツ課		
	予算事業名	2. 歴史民俗博物館企画展事業			係名	文化係		
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-23-1045			
	事業期間	開始年度	昭和62年度	終了年度	当面継続	予会計	一般会計	
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち			算科目目	款	教育費
		政策名	10 明日を担う人づくり				項	社会教育費
		施策名	31 生涯学習の推進				目	歴史民俗博物館費
		基本事業名	31-3 博物館の充実				アウトソーシング導入状況	導入予定なし
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	常設展とは別に、テーマを設けて展示を行う企画展を開館期間中に2回実施する。	
	対象	市民、県内外観光客	
	手段(活動指標)	企画展の開催	
	意図(成果指標)	地元魚津の歴史や今も伝わる貴重な文化財を知ることができる。	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 企画展の開催回数	回	2	2	2	2	100.0%	2	
	②								
	③								
	成果指標	① 企画展の入館者数	%	2,500	2,810	2,800	2,237	79.9%	2,500
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	810,000	382,960	1,210,000	890,411	132.5%	677,000
	② 委託料	円			330,000	249,372		130,000
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円	96,000		20,000			616,000
	支出合計(A)	円	906,000	382,960	1,560,000	1,139,783	197.6%	1,423,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円			500,000	270,000		
	③ 地方債	円						
	④ その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	906,000	382,960	1,060,000	869,783	127.1%	1,423,000
	収入合計	円	906,000	382,960	1,560,000	1,139,783	197.6%	1,423,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	2	2	2	2	0.0%	2
	② 年間所要時間	時間	480	400	600	600	50.0%	600
	③ 人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	2,016,000	1,680,000	2,520,000	2,520,000	50.0%	2,520,000
総費用(A+B)	円	2,922,000	2,062,960	4,080,000	3,659,783	77.4%	3,943,000	

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	企画展「くらしのうつりかわり」展及び「魚津の民俗芸能」展を開催。市内の小学6年生を対象に企画展の見学会を実施。	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	地域の歴史や文化の保存・継承のためには必要な事業である。
対象の妥当性					1 妥当である	市民を中心に歴史や文化に理解深めてもらう事業であり、対象は妥当である。
有効性	有効性	A	B	目標達成度	2 目標どおり	小学生を対象に企画展見学会を開催するなど、概ね目標どおりの成果を得られた。
				類似事業の有無	1 なし	他の部局に同じような事務事業は存在しない。
				上位施策への貢献度	1 高い	ふるさと教育を行うことは、地域の歴史や文化の継承のためには重要である。
効率性	効率性	B	B	コスト効率	2 普通	企画展の開催のためには、必要最低限の予算である。
				実施主体の適正化	1 適正である	博物館の学芸員が中心となって企画展示しており、実施主体は適正である。
				負担割合の適正化	1 適正である	市が企画展示を行うことで、市民に理解を深めてもらう事業であることから適正である。
	1次評価(課長総括)	A	B	事業の進め方・内容について改善の余地あり	2次評価	不要
	後の方針(課題及び今後)	展示内容の見直しや収蔵品の活用などにより博物館の魅力を高める必要がある。			評価結果	

1 基本項目	事務事業名	水族館施設整備事業		担当部署	課名	水族博物館			
	予算事業名	施設整備事業			係名	管理係			
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-24-4100			
	事業期間	開始年度	平成20年		終了年度	当面継続	予会計	水族館事業特別会計	
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち			算科目目	款	1. 水族館費	
		政策名	10 明日を担うづくり				項	1. 水族館費	
		施策名	31 生涯学習の推進				目	1. 水族館管理費	
基本事業名		31-3 博物館の充実			アウトソーシング導入状況		導入予定なし		
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載				

2 事業概要	事業概要	水族館施設の大規模な新規及び改修整備に関する施設改修事業	
	対象	①入館者②魚津水族館館内設備	
	手段 (活動指標)	大規模な整備に関する施設改修工事	
	意図 (成果指標)	効果的な改修を行い、今後10年にわたっての安定運営を図る。	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	①年間入館者数	人	150,000	187,306	150,000	144,991	96.7%	150,000	
	②								
	③								
	成果指標	①入館者の前年対比	%	106.6	133.1	100.0	77.4	77.4%	100.0
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円						
	②委託料	円			475,000	253,800		
	③工事請負費	円	16,593,647	16,534,350	10,800,000	10,797,376	-34.7%	9,000,000
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円	1,500,000	1,470,000				
	支出合計 (A)	円	18,093,647	18,004,350	11,275,000	11,051,176	-38.6%	9,000,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円	18,093,647	18,004,350	11,275,000	11,051,176	-38.6%	9,000,000
	⑤一般財源	円						
	収入合計	円	18,093,647	18,004,350	11,275,000	11,051,176	-38.6%	9,000,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	5	5	5	2	-60.0%	2
	②年間所要時間	時間	500	500	800	700	40.0%	700
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	2,100,000	2,100,000	3,360,000	2,940,000	40.0%	2,940,000
	総費用(A+B)	円	20,193,647	20,104,350	14,635,000	13,991,176	-30.4%	11,940,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	○ペンギンプール防水塗装及び野鳥進入対策工事	
	○魚津水族館外周柵更新工事	
	○魚津水族館洋式トイレ改修工事	
	○ドテザメ架台更新工事	
	○大型淡水魚水槽濾過槽ポンプ更新工事	
	○魚津水族館入口横室外横目隠しパネル設置工事	
	○波の水槽ポンプ更新工事	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
						2次評価	不要
妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	当館は、市で経営しているため	
				目的の妥当性	1 妥当である	入館者の要望や劣化による緊急性	
				対象の妥当性	1 妥当である	入館者の安全性、展示を考えると妥当である	
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	入館者の要望と安全、またポンプを交換することにより飼育生物の安全を確保できた	
				類似事業の有無	1 なし	対象となる施設がない	
				上位施策への貢献度	1 高い	生物展示が安全にできる。また入館者の安全性が高くなる	
効率性	効率性	A	A	コスト効率	2 普通	適正に入札を行っている。	
				実施主体の適正化	2 改善の余地あり	事業が増大している。大型施設設備のための設計ができる技師が不在である。	
				負担割合の適正化	1 適正である	市所有施設による市単独事業のため	
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要	
	後の方針 (評価結果及び今後の方針)	26年度において、長期的な施設整備計画を検討したところ、10年間で10億円以上の施設整備費が見積もられ、莫大な予算が必要であることが明らかになった。緊急性及び必要性の高いものから計画的に整備が必要であり、毎年、大きな支出が見込まれる。				評価結果	

1 基本項目	事務事業名	水族館企画展事業		担当部署	課名	水族博物館			
	予算事業名	企画展事業			係名	飼育研究係			
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-24-4100			
	事業期間	開始年度	昭和56年		終了年度	当面継続	予会計	水族館事業特別会計	
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち			算科目	款	1. 水族館費	
		政策名	10 明日を担うづくり				項	2. 水族館費	
		施策名	31 生涯学習の推進				目	1. 水族館管理費	
基本事業名		31-3 博物館の充実			アウトソーシング導入状況		導入予定なし		
根拠法令				総合計画等への記載		総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	担当者が世間情勢を考慮しながらテーマを選び、特別展会場を中心に年に数回開催する。	
	対象	来館者	
	手段 (活動指標)	夏の特別展、ホタルイカ展示、クリスマス展、ハロウィーン特別展示、干支展	
	意図 (成果指標)	企画展を通して、入館者は生物に対して興味がわき、知識が増える。	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 企画展の実施回数	回	6	6	6	6	100.0%	6	
	②								
	③								
	成果指標	① 特別展開催期間中入場者数/年間入場者数	%	100	80	100	100	100.0%	100
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	1,094,000	685,836	1,106,000	771,664	12.5%	512,000
	② 委託料	円			944,000	513,810		942,000
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円	1,043,534	587,229	146,000	46,358	-92.1%	344,000
	支出合計 (A)	円	2,137,534	1,273,065	2,196,000	1,331,832	4.6%	1,798,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他 (使用料、雑入等)	円	2,137,534	1,273,065	2,196,000	1,331,832	4.6%	1,798,000
	⑤ 一般財源	円						
	収入合計	円	2,137,534	1,273,065	2,196,000	1,331,832	4.6%	1,798,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	1,800	1,800	1,800	1,560	-13.3%	1,560
	③ 人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	7,560,000	7,560,000	7,560,000	6,552,000	-13.3%	6,552,000
	総費用 (A+B)	円	9,697,534	8,833,065	9,756,000	7,883,832	-10.7%	8,350,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホタルイカ展示</li> <li>○夏の特別展 イエー! みんなの家展: 「家: すみか」をテーマにした企画展した。</li> <li>○ハロウィーン水槽設置</li> <li>○クリスマス展</li> <li>○冬の特別展示: 紅白エビ合戦</li> </ul>	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	その時の話題性を踏まえて行っている
対象の妥当性					1 妥当である	水族館への集客につながっている
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	多くの入館者が企画展を見ている
				類似事業の有無	1 なし	県内唯一の施設のため、類似施設はない
				上位施策への貢献度	1 高い	特別展を通して、多くの入館者が生物の知識につながっている
効率性	効率性	B	A	コスト効率	2 普通	コスト効率が高い事業を行っている
				実施主体の適正化	1 適正である	水族館から多くの入館者に情報を提供している
				負担割合の適正化	1 適正である	水族館から多くの入館者に生物の情報を提供できるため
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要
	後(課長)の評価結果及び今後の方針	企画展事業の中でも、春の期間と夏休みの期間は重要で、来館者を惹きつけたり、満足させられる企画が求められる。そのためには、準備期間を3年ほど取り、計画を早め立てていくことが重要で、予算もそれに合わせた形にするべきである。また、予算が多くなるが、外部のイベントを入れることも考えられる。これにより、宣伝は早くかけられるようになり、来館者増につながる可能性が大きい。				評価結果

1 基本項目	事務事業名	水族館博物館事業		担当部署	課名	水族博物館	
	予算事業名	博物館事業			係名	飼育研究係	
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-24-4100		
	事業期間	開始年度	昭和56年	終了年度	当面継続		
	総合計画	目標名	基本目標4 人と文化を育むまち		予会計	水族館事業特別会計	
		政策名	10 明日を担う人づくり		款	1. 水族館費	
		施策名	31 生涯学習の推進		項	2. 水族館費	
基本事業名		31-3 博物館の充実		目	1. 水族館管理費		
根拠法令			アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
			総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	①水族館の常設展示生物の飼育・展示 ②調査研究 ③普及活動に関わること					
	対象	①常設展示生物 ②入館者 ③普及活動					
	手段(活動指標)	①水族館の常設展示生物の飼育・展示 ②調査研究 ③うおづ水辺の調査隊活動等					
	意図(成果指標)	①水族館の展示生物をよい状態で飼育・展示ができる ②調査研究の結果を年報やホームページで公表する ③普及活動により、水生生物に対する理解が向上する					

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 展示生物	点	10,000	11,000	11,000	10,000	90.9%	10,000	
	② 調査研究数	件	4	3	3	3	100.0%	3	
	③ 普及活動参加人数	人	8,000	7,000	8,000	8,000	100.0%	8,000	
	成果指標	① 本年度展示生物数/前年度の展示生物数	%	100	100	100	100	100.0%	100
		② 論文・報告発表数	数	8	3	8	5	62.5%	5
		③ 普及活動の満足度	%	100	100	100	100	100.0%	100

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円	7,082,961	6,143,769	7,965,547	6,411,893	4.4%	7,729,000
	②委託料	円			500,000	340,200		
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円			330,000	330,000		326,000
	⑤その他	円	1,488,375	1,285,085	719,000	493,543	-61.6%	1,471,000
	支出合計(A)	円	8,571,336	7,428,854	9,514,547	7,575,636	2.0%	9,526,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円	8,571,336	7,428,854	9,514,547	7,575,636	2.0%	9,526,000
	⑤一般財源	円						
	収入合計	円	8,571,336	7,428,854	9,514,547	7,575,636	2.0%	9,526,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	②年間所要時間	時間	1,800	1,800	1,800	1,700	-5.6%	1,700
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	7,560,000	7,560,000	7,560,000	7,140,000	-5.6%	7,140,000
	総費用(A+B)	円	16,131,336	14,988,854	17,074,547	14,715,636	-1.8%	16,666,000

平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容

5 取組内容	○ホタルイカ発光実験開催
	○うおづ水辺の調査隊活動の実施：今回の活動は、自分で疑問を持ち、自分で解決し発表を行った。
	○アウトリーチ活動の実施：25年度は、市内の小学校に魚津の河川で見られる淡水魚と海岸の生物水槽のいずれかを設置した。
	○発光実験サマーバージョン2014を開催
	○水槽クリニック：市内小学校に配布したメダカの確認と調整
	○魚津市内の淡水魚、両生爬虫類および野鳥の調査を行った。

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
						2次評価	不要
妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	当館は、市で経営しているため	
				目的の妥当性	1 妥当である	入館者の要望や話題性	
				対象の妥当性	1 妥当である	水族館への集客につながっている	
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	水族館への集客につながっている	
				類似事業の有無	1 なし	県内唯一の施設のため、類似施設はない	
				上位施策への貢献度	1 高い	水族館への集客につながっている	
効率性	効率性	B	B	コスト効率	2 普通	コスト効率が高い事業を行っている	
				実施主体の適正化	1 適正である	水族館から多くの入館者に情報を提供している	
				負担割合の適正化	1 適正である	水族館から多くの入館者に生物の情報を提供できるため	
	1次評価(課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要	
	後の方針(評価結果)	博物館事業は水族館の命であり、この部分の充実に力を入れるのは欠かすことができない。これまで、リニューアルなどで通常展示はよくなっているため、恒常的な展示更新や、普及活動などを行って、情報を発信することで、魚津水族館の魅力をアピールしたい。				評価結果	

1 基本項目	事務事業名	蜃気楼ネットワーク事業			担当部署	課名	埋没林博物館	
	予算事業名	蜃気楼ネットワーク事業				係名	管理係	
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-22-1049		
	事業期間	開始年度	平成15年度	終了年度	当面継続	予会計	一般会計	
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち			算科目目	款	教育費
		政策名	10 明日を担う人づくり				項	社会教育費
		施策名	31 生涯学習の推進				目	埋没林博物館費
		基本事業名	31-3 博物館の充実				アウトソーシング導入状況	
根拠法令				総合計画等への記載		総合計画に主要事業として記載		

2 事業概要	事業概要	市の観光資源の1つである「蜃気楼」に関する情報の集約、情報交流、発生メカニズムの解明、一般市民への知識の普及を目指す事業
	対象	蜃気楼に何らかのつながりを持つ人、情報及び魚津市民
	手段 (活動指標)	蜃気楼交流会の開催、交流会記録誌の発行 日本蜃気楼協議会と連携した講演会の開催
	意図 (成果指標)	蜃気楼に関する人、情報等の交流を促進し、魚津市民には郷土の地域資源としての蜃気楼に関する理解を深める。

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 研究発表件数	件	10	8	10	9	90.0%	10	
	② 記録誌配付件数	件	100	100	100	100	100.0%	100	
	③								
	成果指標	① 聴講者	人	50	27	50	34	68.0%	50
		② 講演会参加者	人	100	28	100	31	31.0%	100
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	159,000	144,500	159,000	128,800	-10.9%	159,000
	② 委託料	円						
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円	20,000	10,000	20,000	10,000	0.0%	20,000
	支出合計 (A)	円	179,000	154,500	179,000	138,800	-10.2%	179,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他 (使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	179,000	154,500	179,000	138,800	-10.2%	179,000
	収入合計	円	179,000	154,500	179,000	138,800	-10.2%	179,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	360	500	400	540	8.0%	540
	③ 人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	1,512,000	2,100,000	1,680,000	2,268,000	8.0%	2,268,000
	総費用 (A+B)	円	1,691,000	2,254,500	1,859,000	2,406,800	6.8%	2,447,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	<p>○日本蜃気楼協議会と連携し第11回蜃気楼交流会（特別講演会、研究発表会）を開催した。</p> <p>○特別講演会、研究発表会の内容を記録した「第11回蜃気楼交流会記録誌」を発行・配布した。</p>	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由			
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	蜃気楼の調査研究、情報発信を行っている市立の博物館として、民間と連携しながら主体的に取り組むべき事業である。		
目的の妥当性					1 妥当である	蜃気楼については市内外から関心が高く、蜃気楼を通じた人や情報の交流を促進する事業として目的は妥当と考えられる。			
対象の妥当性					1 妥当である	蜃気楼については市内外の関心が高く、対象の設定は妥当である。			
有効性	有効性	B	B	目標達成度	3 低い・未実施	会場容量を参加定員として設定しているが、満席とはなりにくい。また、近年他のイベント等と競合し、参加者の確保が困難。			
				類似事業の有無	1 なし	独自の事業であり類似事業はない。			
				上位施策への貢献度	1 高い	市民等の関心の高い蜃気楼に関する情報を発信することは、生涯学習の充実に貢献している。			
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	必要最低限のコストで実施している。			
				実施主体の適正化	1 適正である	博物館として主体的に実施すべきである。			
				負担割合の適正化	1 適正である	必要最低限のコストで実施しており、市の負担が大きいとは言えない。			
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要			
	後の方針 (評価結果及び今後)	シンポジウム等の補助事業としての実施を引き続き検討する。				評価結果			

1 基本項目	事務事業名	埋没林博物館展示事業		担当部署	課名	埋没林博物館	
	予算事業名	調査研究・展示事業			係名	管理係	
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-22-1049		
	事業期間	開始年度	平成4年度	終了年度	当面継続		
	総合計画	目標名	基本目標4 人と文化を育むまち		予会計	一般会計	
		政策名	10 明日を担うづくり		款	教育費	
		施策名	31 生涯学習の推進		項	社会教育費	
基本事業名		31-3 博物館の充実		目	埋没林博物館費		
根拠法令				アウトソーシング導入状況	導入予定なし		
				総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載		

2 事業概要	事業概要	調査研究の成果をもとに展示を発案・作成し、知識や情報を親しみやすい形で市民及び博物館利用者に提供する。	
	対象	常設展示・企画展示内容及び展示物、魚津市民及び入館者	
	手段 (活動指標)	企画展「魚津の目玉展」、「魚津ナチュラルギャラリー」、「蜃気楼写真展」を実施	
	意図 (成果指標)	展示を企画・製作し、利用者の観覧に供する。	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 展示企画開催件数	件	3	3	2	3	150.0%	3
	② 企画展開催日数	日	300	360	260	314	120.8%	300
	③							
	① 企画展示期間入館者数	人	45,000	41,251	41,000	32,833	80.1%	55,000
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	314,414	314,414	150,000	140,804	-55.2%	200,000
	② 委託料	円						
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円						
	支出合計 (A)	円	314,414	314,414	150,000	140,804	-55.2%	200,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他 (使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	314,414	314,414	150,000	140,804	-55.2%	200,000
	収入合計	円	314,414	314,414	150,000	140,804	-55.2%	200,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	400	800	800	660	-17.5%	660
	③ 人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	1,680,000	3,360,000	3,360,000	2,772,000	-17.5%	2,772,000
	総費用 (A+B)	円	1,994,414	3,674,414	3,510,000	2,912,804	-20.7%	2,972,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	○「蜃気楼写真展」(5/1~7/31)の企画、開催	
	○「魚津の目玉展」(8/1~11/30)の企画、製作、開催	
	○「魚津ナチュラルギャラリー15」(12/1~1/31)の企画、製作、開催	
	○自作展示台の作成等、実物展示を増やす等教育効果を高めた	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	生涯学習・社会教育施設として目的は妥当である
対象の妥当性					1 妥当である	自然史系博物館として自然科学分野の企画展示を実施し、市内外の利用者に生涯学習の場を提供している
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	改修のための休館期間があり、利用者数は目標を超えるところまでいかなかった
				類似事業の有無	1 なし	類似事業はない
				上位施策への貢献度	1 高い	自然史系博物館として自然科学分野の企画展示を実施し、市内外の利用者に生涯学習の場を提供している
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	必要最小限の予算で実施している
				実施主体の適正化	1 適正である	博物館が独自に実施すべき種類の事業であり、また蜃気楼写真展等は外部団体とも連携して実施している
				負担割合の適正化	1 適正である	公立博物館として自治体の費用負担は適正である。
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要
	後の方針 (評価結果及び今後)	リニューアルによって企画展示室が整備され、展示構成の自由度が向上した。スタッフの育成、人員確保に引き続き努めたい。			評価結果	

1 基本項目	事務事業名	魚津埋没林埋蔵分布調査事業			担当部署	課名	埋没林博物館	
	予算事業名	魚津埋没林埋蔵分布調査事業				係名	管理係	
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-22-1049		
	事業期間	開始年度	平成25年度	終了年度	平成27年度	予会計	一般会計	
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち			算科目	款	教育費
		政策名	10 明日を担う人づくり				項	社会教育費
		施策名	31 生涯学習の推進				目	埋没林博物館費
基本事業名		31-3 博物館の充実			アウトソーシング導入状況		導入済（業務委託）	
根拠法令				総合計画等への記載		総合計画実施計画に記載		

2 事業概要	事業概要	特別天然記念物指定地内及び周辺に埋蔵される埋没林を非破壊的手法で探査する。					
	対象	博物館敷地及び周辺に埋蔵された埋没林					
	手段 (活動指標)	地中レーダー探査、電気探査等を委託により実施する					
	意図 (成果指標)	探査により分布情報を把握する。得られたデータは埋没林包蔵地の保全、文化財の教育普及等に活用する。					

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 探査測線延長	m	1,400	1,051	1,400	1,500	107.1%	1,200	
	②								
	③								
	成果指標	① 埋没林の可能性のある反応数	箇所	10	10	10	5	50.0%	10
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	14,000	13,800	22,000	20,800	50.7%	290,000
	② 委託料	円	754,000	754,000	918,000	918,000	21.8%	630,000
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円	184,000	128,920	13,000	2,020	-98.4%	32,000
	支出合計 (A)	円	952,000	896,720	953,000	940,820	4.9%	952,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円	476,000	476,000	476,000	476,000	0.0%	476,000
	③ 地方債	円						
	④ その他 (使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	476,000	420,720	477,000	464,820	10.5%	476,000
	収入合計	円	952,000	896,720	953,000	940,820	4.9%	952,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	700	700	700	600	-14.3%	700
	③ 人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	2,940,000	2,940,000	2,940,000	2,520,000	-14.3%	2,940,000
	総費用 (A+B)	円	3,892,000	3,836,720	3,893,000	3,460,820	-9.8%	3,892,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	<p>○富山大学に委託し、埋没林博物館敷地内及び周辺での地中レーダー探査、電気探査を実施した。</p> <p>○調査検討委員会を2回開催し、調査の手法、方向性等について検討した。</p>	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	埋没林の保存・顕彰に必要であり妥当である
対象の妥当性					1 妥当である	特別天然記念物指定地内の埋蔵状況を把握する必要から妥当である
有効性	有効性	A	A	目標達成度	1 高い	計画どおり調査を実施した
				類似事業の有無	1 なし	固有の事業であり類似事業はない
				上位施策への貢献度	1 高い	文化財の現状を把握し博物館の内容に反映させることで社会教育・生涯学習の推進につながる
効率性	効率性	B	A	コスト効率	1 高い	民間の調査会社ではできないあるいはきわめて高額となる調査内容を富山大学へ委託することで費用は抑えられている
				実施主体の適正化	1 適正である	特別天然記念物の管理者として主体的に実施すべきものである
				負担割合の適正化	1 適正である	県補助金を活用しており適正と思われる
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要
	後の方針 評価結果及び今後	H25年度に引き続きレーダーや電気探査で指定地内の樹根の存在を確認したので、最終年度で指定地内の調査可能な範囲をすべて調査する必要がある。また、樹根保存のための基礎的データとして地下水位の状況調査を行う必要がある。			評価結果	